



# だより

— つながれ ひろがれ —

第120号  
特定非営利活動法人  
環境パートナーシップちば  
TEL: 090-8116-4633  
E-mail: info@kanpachiba.com  
http://kanpachiba.com/

## 「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」発足と 第1回通常総会開催のご案内

代表理事 桑波田 和子

平成30年1月25日 特定非営利活動法人環境パートナーシップちばが設立しました。

任意団体として設立後20年がたち、これからの活動を継続していく上で、持続可能な社会の実現を目指し、社会的な責任をより強くしていくことを志して、法人格を取得しました。

平成10年特定非営利活動促進法が設置され、法人格を取得する団体が増え続けてきましたが、近年では減少の傾向にあるようです。そのような流れの中で法人格を取得することを決意した思いは、以下の設立趣意書に記しましたので、ご一読願います。

### 【設立の趣旨】

環境パートナーシップちばは、平成9(1997)年6月29日に、「今、環境問題は地球規模として懸念されている。千葉県において環境問題に意識を持ち、それぞれの地域で活動してきた私たちは、今こそ、市民主導型の環境ネットワークを築き、市民・行政・企業とのパートナーシップを目指します」の宣言をして設立されました。

設立当初は、市民団体のネットワークづくりを通して、環境シンポジウム千葉会議、エコメッセ in ちば(環境活動見本市)などの開催に関わり、県内での環境保全の取り組みやパートナーシップの推進の旗振り役を担ってきました。

設立から20年の間に各環境活動団体は活動基盤が強固になり、パートナーシップも築きながら地域環境へ貢献してきました。しかし、近年、高齢化、働き方等社会の状況が変化し、環境団体の存続も危ぶまれています。

また、市民・行政・企業などとの成熟したパートナーシップを築くために、市民力の向上も課題です。一方、地球規模での環境問題として、気候変動、生物多様性の劣化、自然災害、エネルギー問題などの解決には、経済、教育、貧困など幅広

い領域にまたがり、従来のネットワークやパートナーシップでは対応しにくくなっています。

これらを鑑み、環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざし、以下の活動を今後の主軸とします。

- 1 持続可能な社会を目指すための多様な主体とのネットワークの構築
- 2 持続可能な社会を推進するための人材育成
- 3 環境活動の推進と充実を図るための情報の発信

設立から20年たった今、これまでの活動を活かし、今後の活動を継続して、社会的責任のもと、より信頼のある団体として認知されるよう「特定非営利活動法人環境パートナーシップちば」として法人化することを決意しました。

以上を踏まえ、これから力強く歩みたいと思いますので、会員の皆様はじめ、多くの方のご協力、ご支援を賜りますよう、お願いいたします。

### 第1回(平成30年度)通常総会開催

日時 平成30年5月19日(土)

午後1時30分~3時

会場 きぼーる 多目的室(15階)  
千葉市中央区中央4丁目5-1

会員の方には、総会のご案内(議案、出欠など)を後日郵送いたします。議案などご確認の上、出欠のお返事(欠席の場合は委任状)など、ご対応のほどよろしくお願いいたします。

# ESD・SDGs とエネルギー環境教育を考える会を開催

ELCoの会 代表 市野 敬介

ELCoの会は千葉県内の環境学習コーディネーターの緩やかなつながりとして形を残しております。今後も、環境活動に関わる方や、環境学習コーディネーターが多角的に学ぶ場を設定していきます。その皮切りに、2月14日(水)、船橋市市民活動センターでエネルギー環境教育を考える時間を設けました。1月に行われた環パちば20周年記念講演でSDGsの考え方が整理された直後の時期でした。

エネルギー教育や環境教育は、発電方法を比較したり、温室効果ガスの排出と関連して学んだり、体験を伴って学んだりという学習会や情報発信が行われていることが多いのですが、今回は、今まで着目されてこなかった「発電の廃棄物」に焦点をあてよう、という意図で検討会を設定する運びとなりました。



まずは市野が、ELCoの会で取り組んだESD環境教育を振り返りました。2014年で「ESDの10年」に区切りがつかいましたが、SDG4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」を具現化するアジェンダの中に、4.7として「2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。」と、ESDの必要性がうたわれています。他にも、SDGsは「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」というエネルギー問題や「12. つくる責任つかう責任」という、化学物質や廃棄物の処分についてのアジェンダも関連している課題ではないか、それをESDで目指すべき「地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題と

して捉え、身近なところから取り組み(Think globally, Act locally)、持続可能な社会づくりの担い手となる」という個々人の育成につなげられないだろうか、という問題提起を行いました。

次の、情報提供者として原子力発電環境整備機構(NUMO)地域交流部の江崎さんから、原子力発電をした後も再処理しきれない「高レベル放射性廃棄物」の最終処分についての現状と、NUMOが行う教育支援活動について、ご紹介いただきました。

過去50年近く、原子力発電で使われた使用済み燃料を再処理しても、どうしても約5%はリサイクルできない高レベル放射性廃棄物として処分をすることが求められます。放射能が減衰すると予測される1万年から10万年の間、人間の日常生活に影響を及ぼさない方法として深い地下に埋設する「地層処分」で行うことは、すでに世界中で合意されています。

北欧の一部の国では処分地を選定して、計画が動き出しています。日本はまだ処分をする場所の選定もできていません。私たちの世代が出してきた廃棄物をどうするのか。処分地の選定から埋設まで100年近くかかるこの事業は、問題を知識として知るだけでなく、処分方法の選択から処分地の選択に至るまで、次世代とともに「主体的、対話的で深い学び」をするための題材となり得ます。

全国の教員が取り組んでいる授業づくりの支援活動も紹介いただきました。参加された方からも様々な質問をいただきました。原子力発電の是非ではなく、過去の世代が出したゴミをいかに長期間、安全に処分するか。次世代とともに俯瞰的に考えて課題解決するため、ESDの観点で教育を行うことが重要だと実感した時間となりました。



「循環型農漁業と地球にやさしいまちづくり」のイメージ (NUMOパンフレットより)

## エコmesse 2018 in ちば 出展募集開始

エコmesse 2018 in ちば 実行委員会  
広報・交流部会長 谷合 哲行

いよいよ 2018 年度がスタートします。エコmesse 2018 in ちばは、2018 年 10 月 8 日(月・祝) 10 時から 16 時まで幕張メッセ国際会議場を会場として開催されます。今年は4月中旬から 8 月 10 日まで、ホームページ (<http://www.ecomesse.com/>) から出展団体の申し込みを受け付けます。6月末までの早期申し込み割引も継続されていますので、奮ってご参加ください。

今年のテーマは「ちばから発信 SDGs」です。2015 年に国連で採択された国際目標”SDGs(持続可能な開発目標)”は、2030 年に向けて世界が合意した 17 の目標と 169 のターゲットから構成される国際的な目標です。全人類に関わる全ての活動が包括されるような幅広さと、2030 年までに取り組むべき具体的な課題が設定されています。

当然、エコmesse in ちばがこれまでの 22 年間の活動で取り上げてきたさまざまなテーマについても、SDGs の中に含まれていますし、出展していただいている企業・団体・行政の活動も含まれます。さらに、これまでの”エコ”という言葉から連想される”自然環境”に関わる活動ばかりでなく、”福祉”や”国際協力”、”貧困対策”のような、これまでのエコmesseでは馴染みの薄いテーマに取り組んでいる団体も参加できるようなイベントづくりを目指しています。

具体的には SDGs に関するセミナーや講演会、パネルディスカッションなどの開催を計画しています。”SDGs って何?”といった入門的な企画から、国内でも SDGs を意識した先進的な取り組みを行っている企業・団体の方による事例報告、更には青年海外協力隊やシニア海外協力隊による国際的な活動を展開する国際協力機構(JICA)の協力をいただき、国際的にも先進的な活動事例を紹介していただける企画を予定しています。更に

こどもから大人まで幅広い年代の方に体験的に SDGs を学んでいただけるワークショップコーナーを設けることも検討しています。

出展団体には、申し込み時に SDGs の 17 の目標の中から、自分たちの活動に最も関わりの深いもの一つを選んでいただき、出展時のブースにプラカードとして掲示したいと考えています。これによって、これまでは身近で小さな活動と思われるがちだった活動であっても、国際的な目標設定につながっている活動として再認識していただけることを期待しています。

SDGs というテーマはまだまだ一般的ではないですが、別に何か新しいことをしてもらおうとか、国際的なことをしなくてはならないというわけではありません。むしろ、日本における身近な日常生活も国際社会とつながっていて、一人一人の心掛けや一歩を踏み出す勇気が大きな目標達成のために、求められていることを伝えたいと思っています。

こうした新しい取り組みを広く知っていただくため、HP を大きく刷新しています。写真やイラストを多用したソフトなトップページにしたり、スマートフォンやタブレット型端末での閲覧を想定したプラットフォームを採用したりすることで、より見やすいページ構成にしています。

昨年まで取り上げてきた”COOL CHOICE”に関するコーナーや”食エコ”に関する企画も継続的に実施しますし、これまでに出展していただいた多くの企業・団体・行政の展示も行います。これまでよりもずっと幅広い分野について、各地で展開されている活動を紹介できようイベントにしたいと思っています。SDGs という新しい目標設定のもと、新たな活動紹介の場として、エコmesse 2018 in ちばにご参加・ご出展ください。今年度もよろしく願いいたします。



エコmesse 2017 in ちば  
(2017 年 10 月 9 日開催)  
の様子

## SDGs で千葉を元気に！ Part.1

### フォーラム『ひとづくり2030』の参加報告

1月13日に環境パートナーシップちば 20周年記念講演会「パートナーシップで元気なちばを創ろう！～SDGs 時代に求められる市民活動とパートナーシップ～」が行われてから2ヶ月が経ちました。皆さんの周りでは「SDGs」達成に向けての取り組みが推進されていますか？

3月4日に青山において、関東地方 ESD 活動支援センター主催で「『ひとづくり2030』～SDGs 達成に向けた人材育成について学び・考え・行動する～」というフォーラムが開催され、参加してきましたので、ご報告します。

フォーラムでは、ESD をより一層推進することが SDGs の達成に直接・間接につながって、持続可能な社会の担い手づくりを通じて、SDGs17 全ての目標の達成に貢献する、と説明されました。

SDGs の達成にアプローチしているいろいろな実践事例が紹介されました。

「学校での人づくり」は元伊豆市立天城中学校の元校長で、ESD-J 理事の大塚明様から発表があり、取り組みのきっかけから生徒の変容に至るまでの話をいただきました。

「地域での人づくり」では、チャウス自然体験学校の加藤正幸様から、ESD をプログラムに導入

したきっかけから、取り組んだ自分自身が変わったとの発表があり、心に響きました。

「国際・地域を両立する人づくり」は JICA 東京国際センターの高橋依子様のご報告で、地域の宝が世界の役に立った事例、自然塾寺子屋の矢島亮一様からは、地域に根ざし日本と世界の農村について考え行動する、農でつながる人づくりの「農村から日本と世界を元気に！」という報告がありました。

千葉でもこれらの事例を参考に、取り組みたいと考えています。今後の活動にご協力ください。



(文責：横山 清美)

## 日本 ESD 学会 「SDGs と ESD」特別企画シンポジウム

### — ESD の実践と研究の有機的連携にむけて — 参加報告

開催日時：2018年3月3日

13:30～18:00

会場：国連大学ウ・タント国際会議場

主催：日本 ESD 学会、国連大学サステイナビリティ高等研究所

上記の日程で開催された、シンポジウムに参加しました。日本 ESD 学会は、ESD の理論的・実践的研究、実践の情報交換等を行うことにより、持続可能な社会の創造に貢献することを目的として、研究者、教育者、学生、市民がその立場や分野を越えて協働するために、2017年4月に設立されました。http://jsesd.xsrv.jp/

当日の会場は満席の状態、参加者属性は資料によると、参加者が多い順に、教育者・研究者、NGO/NPO、個人、企業、政府・自治体、学生、メディア、国連機関、外交官と多様でした。

プログラムは、長友恒人氏（日本 ESD 学会会長/奈良教育大学名誉教授）の挨拶から始まり、第一部：ESD の経験と到達点の講演が2題。

第二部は教育の質の向上と ESD のパネルディスカッション（パネリスト：横浜市永田台小学校教諭、日能研、岡山 ESD コンソーシアム）。

第三部は、持続可能な開発/SDGs と ESD のパネルディスカッション（パネリスト：北九州 ESD 協議会、奈良教育大付属小教諭、日本経団連教育・CSR 本部）。

総括は、実践・研究をつなぐ全体討議で、予定した時間がオーバーしての閉会となりました。長丁場のシンポジウムでしたが、納得・参考・現状・ESD の取り組みの地域差など、聞いている側としても飽きることなく、聞き入ってしまいました。

「学校で ESD の学びを通して、子どもたちが主体的にかかわる意欲が見られるようになり、教師も元気になった」「企業の役員・従業員の社会に対する感度を高めていくために、ESD が持つ価値観を企業にも浸透させていくことがますます重要」などの発言を聞き、心強く思いました。

(文責：桑波田 和子)

## 環境をテーマに地域で「つながる」

(公財)新宿区勤労者・仕事支援センター 中村 明子

私は、東京都新宿区立のリサイクル活動センターで勤務しています。ここはいわゆる清掃事務所ではなく、区民の3R活動を啓発・推進を目指した事業を行っています。公益財団法人新宿区勤労者・仕事支援センターが指定管理者として請負っていますが、この財団の主な事業は、勤労者等の福利厚生サービスの提供と、障害者・高齢者・若年非就労者・女性の方等への総合的な就労支援です。母体が福祉系なのに3Rも、という異色な環境系のセンターです。

新宿区には他に、新宿区立環境情報センターがあり、そこはNPO法人新宿環境活動ネットが指定管理者で、環境全般をテーマに「多くの地域団体や事業者、行政、学校等と連携しながら市民参画型の『協働』による公共施設運営にチャレンジ」すると方針を掲げています。どちらも背景や方針に違いはあるものの、一人でも多くの人に、環境破壊を食い止めるべく理解を深め、何かしらのアクションを起こして欲しいという点は一致しています。

新宿区の人口は約34万人(H30年3月)ですが、昼間人口は約2.3倍(平成22年国勢調査)です。新宿駅で開催される3Rフェアの来場者も区外の方が多く、また2020年東京オリンピックに向け海外からの観光客増加も見込まれ、この視点から海外向け番組を作っているNHKワールドから当センター内で行っているおもちゃ病院の取材も受けるなど首都ならではの特徴ある土地柄です。

とはいうものの日常生活において、住民の方たちと3R活動を推進していくには、顔と顔を合わせた地域密着型の活動を地道かつ元気に行っていくことが基本だと思います。環境情報センターの『協働』のノウハウや姿勢は非常に参考になります。

今は知識や情報は量質ともに豊富ですが、すぐに忘れるか、頭でっかちになりがちです。当センターも、次年度から地域で活動する人材育成を始めます。地域コミュニティの延長で生活感あふれることをしたいと思います。

## 三番瀬交流会に参加して

浦安三番瀬を大切にする会 横山 清美

2月24日 船橋の川守ビル3階 会場で第1回三番瀬活動団体が集まり交流会が開催されました。主催のフィールドミュージアム・三番瀬の会が、東京湾三番瀬の干潟環境を大切に思い守ること、活かすこと、次世代の子どもたちに、干潟の環境を体験して欲しい願いからそれぞれの市民団体の活動の充実とともに、多岐にわたる内容を一同に介して報告し、意見交換の場を作って、三番瀬の環境を大切にする活動の今後を前向きに検討する機会にしたいとのことから今回の集いを呼びかけられました。

呼びかけの際に団体に現状の課題や将来の夢を記載するアンケートの要請がありました。これは、交流会テーマの「三番瀬みんなんで夢を語り、課題を出しあい、対策の提案を行動につなげよう」の解析という形で活かされていました。参加団体は、自然と文化研究会 theかもめ、海老川調節池を市民と活用する会、三番瀬を守る署名ネットワーク、市川緑の市民フォーラム、浦安三番瀬を大切にする会、フィールドミュージアム・三番瀬の会、でした。この団体の情報をベースにして、今後参加団体が増えることを期待したいと思います。

当日午前の部は、船橋の若手漁師の山本浩司さんからなかなか聞く機会のない漁業の現場の話をお聞きしました。午後には、中村俊彦さん(元中央博物館副館長)小倉久子さん(環境パートナーシップちば)横山清美(浦安三番瀬を大切にする会)佐野郷美さん(市川緑の市民フォーラム)によるパネルディスカッションが開催され、中村さんからは夢と課題と対策についての解析が報告されて参加者を交えた意見交換につながっていきました。

今回第1回目の交流会でしたが、継続する中で情報の共有化が進み、お互いの活動がつながっていくような成果の道筋が見えてきたように思い、今後期待しています。



## 農業生物資源ジーンバンク・見学報告

3月27日(火)つくば市の国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)の遺伝資源センターにある農業生物資源ジーンバンクを見学してきました。ここは人類がこれまで数千年にわたって作り上げてきた多様な国内外の在来種等を収集・保存し、作物や家畜等農業生物の品種改良に役立てる全国的な仕組みづくりを運営する我が国最大の研究開発機関です。

広大な敷地内に点在する遺伝資源管理施設は、種子の貯蔵庫、微生物や動物生殖細胞の超低温保存庫、遺伝資源の保存と配布・情報の発信や共同実験を行う3棟の建物です。

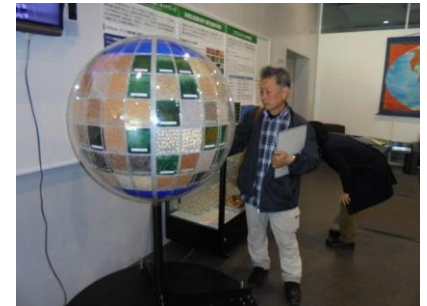
スクリーンの備わった会場で次のようなお話を聞きました。過去農業の歴史の中で様々な生物を利用して多くの品種を蓄積してきたが、近代品種の急速な普及や自然破壊のため生物多様性が失われ、貴重な遺伝子が次々と消えてゆく。そのためジーンバンクでは、世界各地に残っている固有の遺伝資源が消失してしまう前に国内・海外の研究機関と協力して、植物・微生物・動物遺伝資源を計画的に収集・導入して保存していることや、DNA情報を利用したイネの耐病性や生産増加に向けた品種改良を研究していること、また、これ等の遺伝資源は研究・教育用に配布するための保存と長期保存用に分けて貯蔵しているとの説明を

受けました。

なかでも興味を抱いたものは、①コメを食べて花粉症対策を行うバイオ技術による次世代型免疫療法の研究取り組み、②地元酒造会社が絶滅した在来種の酒米を保存中の種子を用いて復活栽培し、往時の日本酒を醸造したという話、③種子貯蔵庫施設はI/Tを駆使したロボットが40万個の保存した棚から瞬時に選別して出し入れする機能でした。

ジーンバン

クで見たこと・聞いたことは、まさに初めて目にする遺伝子銀行でした。(文責:萩原 耕作)



上: 所長さんの説明を聴く

下: 世界中の様々な種子の展示コーナー

## 「すみだと世界をつなぐ水の大切な話」

### —水の循環講座第6回に参加して—

「水の循環講座」第6回(墨田区主催、特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパンの運営協力)が2018年3月11日にすみだリバーサイドホールで開催され、参加してきました。全6回の最終回であるこの日は、水に関するいろいろな環境学習の体験です。

前半は水ジャーナリストの橋本淳司さんのアイスブレイキング的な授業「ブルトラベラー」や、Water Innovatorsの紹介、ウォーターエイドスピーカー(ウォーターエイド養成講座修了生)の紹介がありました。

Water Innovatorsとは、直訳すると「水環境・水問題を改革する人たち」です。企業向けの参加型プログラムであり、与えられた課題(途上国で実際に起こっている課題)を解決し、途上国の生活を変えることをめざします。実際に資金集め(街頭募金、クラウドファンディングなど)をしたり、「わが社」の持つ技術を使って本気で(?)水環境改善を設計します。さらにおもしろいのは、いくつかの企業が同じ課題に対して競争するとい

うゲーム的感覚も取り入れられているので、社員

たちが夢中になって課題に取り組み、自然に仲間意識が強くなり、「わが社」の技術も向上する、という様々な効果があるそうです。これからの

環境教育は、受け身で知識を学ぶのではなく、主体的に関わっていくような形に変えて行かなければいけないということも、強く感じました。

後半は、高校生が行う水循環に関する授業の受講です。静岡県立三島北高校の生徒さんたちが作り、実施する「バーチャルウォーター」「もしもトイレがなかったら」など6種類のプログラムに、参加しました。細かな点では改善の余地がありましたが、生徒さんたちがとても楽しそうに授業をしてくれたことに好感がもてました。

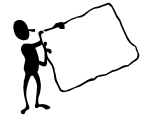
(文責 小倉 久子)



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 43 —

おききました！ この人・この団体  
江戸前おさかな研究会を作ったのは

江戸前おさかな研究会 山本浩司



市民に東京湾の魚や海に親しみを持って欲しく作りました。主な活動は子供たちへのお魚授業、大人向けの試食会、調査クルージングなどです。この団体を作ったきっかけは、私自身が普段東京湾で漁師をしていて多くの海洋資源の可能性に触れつつも、人々がそれを知らないというのがきっかけでした。

例えば、アカエイやダツなどはベテランの漁師も好む美味しい魚ですが、世間のニーズがなく、ほとんどは沖で逃がしてきてしまいます。また、ボラも資源的にはたくさん存在していますが関東圏では食べる文化はほとんどなくなっています。ボラは古文書を見ると、江戸時代は庶民から武士まで普通に食されていました。体表に独特の香りがありこれを臭がる人がいますが、鱗をとって洗えばほとんど臭いません。この体表の匂いを嗅いで臭がり、身も臭いと思っている人が多いのです。特に釣り人に食わず嫌いの方が多く、その方たちがボラの悪評を言っているようで、すっかり人気なくなってしまうました。

実はボラは刺身にして美味しい魚なのです。このように東京湾は多くの可能性秘めていながら、その可能性を活かしきれていないのです。では昔と今では魚の味が変わってしまったのでしょうか。そんなことはないと思います。その原因は今の時代背景にあるのではないのでしょうか。合理的になり売れる魚ばかり優先しているうちにどんどん端に追いやられ、消えていったように思います。また簡単調理で安価な輸入品が入ってきたこともあってと思います。

このような時代背景は、環境意識の変化も引き起こしていると思います。昔の人は当然のごとく環境と共に暮らしていたと思います。海におかずを取りに行ったり、また遊びに行ったり。現代人は環境と暮らしていないと思います。と言うか暮らせない状態だと思っています。食べ物を環境からとることもなくなり、家と職場の往復です。日々の労働に疲れ切った合間には安価で魅力的なデジタル娯楽に費やすのも決して分からなくもないです。

自然海岸は高度経済成長期に埋め立てられ、遊びに行くのに魅力的な場所は少なくなりました。また、今は過保護な時代ですから直立護岸のような場所では遊びづらくなっています。愛着も楽し

い思い出も、また食料供給の場所として可能性も、知らなければ、たとえ近くで育った人たちでも東京湾を大切にしたいとか思えるのでしょうか。つまり、身近な海に無関心な状態は必然的に起きており、しかもこの状態はしばらく続くどころか、これからどんどん悪化していくと思います。

私は現在 35 歳ですが、同世代の人たちは東京湾に生きている生き物についてほとんど知りませんし食べ方も知りません。また、50 代 60 代の方々も知らない方が多いです。海の話は学校でも習いませんし、親世代も知り得ないし、そうならば子供たちも知るよしがありません。知識や文化は継承されず悪循環に入っていると思います。

しかし身近な海、東京湾の可能性は満ちあふれています。

地の物を食べることは食料自給率の点からも

資源循環的にも良いですし、また、地の物を食べることはその環境を食べることと等しく、環境意識を高めることにつながると思います。しかしむずかしいこと言っただけではナンセンスです。

正論を言ったところで守る気持ちは起きるでしょうか。私は起きないと思います。好きなものを守りたいと思います。好きになるには、まず知らなければ好きになれません。なので、まずは知ってもらうことが大切ではないでしょうか。

大きな変革は私が生きているうちは難しいと思っています。

畑に例えると、今は土を耕している状態です。種まきは次世代に。果実の収穫はさらに先で長い時間がかかるでしょう。

まずはただ知ってもらいたいところです。

江戸前おさかな研究会

<http://ecoumi.wixsite.com/edomaeosakana>

# 運営委員会報告

## 2月運営委員会

日時 2月14日(水) 18:00~20:20

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・環境パートナーシップちば20周年記念講演会 1/13
- ・SDGs 講演会応募 ・ちば環境再生基金応募
- ・法人設立申請書を1/25 法務局提出
- ・理事会 2/10
- ・千葉県環境講座実施報告書提出 2/6
- ・だより119号 印刷・発送

### 【協議】

- ・だより120号 ・HP変更
- ・法人化後の組織及び運営について
- ・ジーンバンク見学 3/27
- ・平成30年度千葉県環境講座の検討

## 3月運営委員会

日時 3月7日(水) 18:00~20:55

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・平成30年度千葉県環境講座 経過報告
- ・事務局住所について ・その他

### 【協議】

- ・法人運営役割 ・総会運営検討
- ・正会員・一般会員・賛助会員について
- ・講座等の報酬 ・だより120号
- ・千葉市環境講座 ・運営委員会日程

## 3月運営委員会

日時 3月20日(水) 18:00~20:50

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・平成30年度千葉県環境講座 経過報告

### 【協議】

- ・総会運営及び議案の検討
- ・メーリングリストの見直し ・その他

## お知らせ

### 講演会

「そうだったのか。SDGs  
～誰一人取り残さない世界をつくる」

日時：6月2日(土) 15:00~17:00  
(14:45 受付開始)

会場：千葉市生涯学習センター3F 大研修室

「世界中から貧困をなくす」ことと「持続可能な世界を実現する」ことを2030年までに目指すSDGs。私たちが求める地域や生活のあり方とも大きく関わっています。実現のために、地域でできる取り組みを一緒に考えます。

講師：新田英理子さん(一般社団法人 SDGs  
市民社会ネットワーク 事務局長)

参加費：500円 定員：80名(先着順)

主催：NPOクラブ

【申込み・問合せ】

NPOクラブ TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689

### 市民公開講座(成人向け)

“ともに考えよう！地球温暖化と私たちの暮らし”

日時：2018年6月16日(土) 13:30~16:00

(開場13:00 パネル展示)

場所：船橋市中央公民館 6階 講堂

主催：アースドクターふなばし

協力：国立研究開発法人・国立環境研究所：社会対話・協働推進オフィス

後援：船橋市、船橋市教育委員会、船橋市地球温暖化対策地域協議会

内容：講演1：“温暖化の現状と未来”：国環研・対話オフィス代表：江守 正多氏

講演2：“身の回りの温暖化対策”：国環研・福島支部・主任研究員：五味 馨氏

パネルディスカッション：“知恵を出し合おう、家庭で、地域で”

パネル展示：パネル類、Dagik Earth

事前申し込み：要 参加費：無料

問合せ：Toshimi.abe@nifty.com(事務局)

## 「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

## お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel：090-8116-4633

E-mail：info@kanpachiba.com

http://kanpachiba.com/

※会費や会員申し込みなどの情報は上記HPでご確認ください。